

(様式1)

学校番号 (小・**中** 52)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(佐久間中) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

『こころざしをもち、共に高め合う生徒の育成』の学校教育目標の下、生徒に身に付けさせたい力を踏まえ、支援するための人的、経済的サポートのしくみを提案し、地域資源の掘り起こしを進める。少人数だからこそ取り組める活動を継続し、地域とのつながりを常に意識し、生徒一人一人が主役となって輝く学校づくりのサポートをしていく。

令和8年9月から実施される「休日部活動の地域展開」について本格的な準備が必要になる。これも地域との関係が不可欠な活動となることから、学校運営協議会もその一助となるよう学校と共に議論を重ねていく。また、学校運営協議会の取組が地域の方々や保護者に十分理解されるよう、その浸透についても力を入れていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ **ア** よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

西田校長から小出校長に引き継がれた経営方針が、生徒、保護者、教職員に浸透し、生徒に身に付けさせたい4つの力(かかわる力・みつける力・ふかめる力・かなえる力)が着実に身に付いてきているように感じる。一方で、自己評価項目「自分の苦手なことを把握し、学習の仕方に調整や改善を加えようとしている」の保護者、教員の数値が低く、学習した内容の定着が良くないこと、生徒が調整や改善しようとしているのか図りかねることなどの課題も明らかになっていることが分かった。運営協議会としても、どのような支援活動ができるか次年度の議題に挙げていきたい。

9月から試行を始めた「佐久間地区 地域クラブ」も、年度当初からの準備を経て、運営協議会委員の協力もあって順調に動き始めた。新年度からはまクル登録、また9月からの完全実施に向け、平日の学校部活動と連動し、小学生や地域住民も含めた佐久間の実態に合った活動となるよう支援していきたい。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

学校支援活動を通じて、地域の人・こと・もの、といった教育資源を活用する教育活動を支援することができた。特に総合的な学習の時間の個別探究活動の意見交換会や終日探究の日には、前年度を上回る質の高い具体的な質問をする生徒の姿が見られ、4つの力が確実に育っている実感が得られた。2年目となる、夢育やらまいか（CS加算）による金銭的な支援をタクシー借り切りに充てたことで、充実した取材活動ができたとの報告も受けました。一昨年度来の熟議が実を結んだ成果と言える。今後も生徒の活動を充実させるための支援活動を継続していきたい。

休日部活動の地域展開についても、完全実施となる9月に向け、引き続き「持続可能な」「佐久間の実態に合った」形を模索する議論を重ねていきたい。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

昨年度の総括において、「運営協議会の協議結果について情報発信できたか」ではなく「協議内容が反映された学校教育活動について情報発信できたか」という視点で自己評価してはどうか、という結論になった。それを踏まえた今年度、情報発信を強化する手だてとして、CSだより（地域クラブ通信）の発行を始め、回覧板や地域の事業所への掲示など、運営協議会が関わる教育活動の広報活動を強化した。支援コーディネーターを中心に、学校と地域を繋ぐ役割は十分果たせたと感じている。高齢者が多いこの地区では、社会のデジタル化に追いついていけない難しさもある中で、たよりの発行と掲示という手間暇かかる活動で地道に支援していけたらと考えている。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

生徒に身に付けさせたい力を踏まえ、支援するための人的、経済的サポートのしくみを提案し、地域資源の掘り起こしを進めてきた。少人数だからこそ取り組める活動を継続し、地域とのつながりを常に意識し、生徒一人一人が主役となって輝く学校づくりのサポートをしていきたい。一方で、学習した内容の定着が良くないこと、生徒が自己調整できているのか図りかねることなどの課題も明らかになったので、運営協議会としても、どのような支援活動ができるか次年度の議題に挙げていきたい。

また、令和8年9月から完全実施される部活動の地域展開について初年度となることから、学校と地域を繋ぐ一助となれるよう学校と共に議論を重ねていきたい。